

両生類、魚類及び産業用家畜を使用する動物実験計画に関する動物実験委員会の申し合わせ事項

平成 26 年 3 月 26 日 動物実験委員会承認

改正 平成 29 年 9 月 28 日

令和 5 年 3 月 27 日

広島大学動物実験等規規則第 41 条において飼養保管基準の趣旨を準用する同規則第 4 条第 2 号に規定する実験動物以外の動物及び同規則第 43 条において規則を適用しない産業用家畜とみなされる実験動物を使用する次の動物実験計画について、これまで動物実験委員会において検討した事項等を以下の申し合わせ事項として取りまとめる。

(1) 哺乳類、鳥類及び爬虫類に属する実験動物以外の動物のうち両生類及び魚類に係る動物実験計画

(2) 産業用家畜とみなされる実験動物への処置等に係る動物実験計画

なお、この申し合わせ事項のほか、両生類、魚類及び産業用家畜を使用する動物実験計画に関して必要な事項は動物実験委員会が定める。

○ 哺乳類、鳥類及び爬虫類に属する実験動物以外の動物のうち両生類及び魚類に係る動物実験計画の申し合わせ事項

1. 一般的事項

- ① 法令、指針等によって当該動物に関して具体的な取扱いが定められるまでの間、動物実験委員会において必要な事項を定め運用する。
- ② 動物の愛護及び管理に関する法律、飼養保管基準、基本指針の趣旨に沿った運用を図るとともに、必要な事項について広島大学動物実験等規則を準用する。
- ③ 法的規制がないことから全てを基準化するのではなく、必要最小限のことを定める。
- ④ 動物種によって大きく生態が異なり、画一的な判断が困難であるため、動物種に応じた運用をする。

2. 審査関係

- ① 審査の対象は、動物実験計画の審査が必要な案件として申請のあった動物実験計画とする。(全ての案件が審査対象ではない。)
- ② 動物実験委員会の東広島地区審査部会において審査する。
- ③ 審査部会に関して必要な事項は、「広島大学動物実験委員会に置く審査部会の取扱い」にて定める。
- ④ 審査に必要な書類は、3①により作成した動物実験計画書及び 4②により作成した飼養保管施設チェックシートとし、必要に応じて参考となるものを添付する。

3. 動物実験計画関係

- ① 動物実験計画書の作成要領は、次のとおりとする。(別紙 1、別紙 2)

(1) 広島大学動物実験等規則に定める別記様式第 1 号「動物実験計画書」を使用する

こと。

(2) 動物実験計画書 A ブロックは全て記入する。

(3) 動物実験計画書 B ブロック「1 実験全体で使用する動物の必要数」、「2 算出根拠」は未記入で差し支えないが、それ以外は記入する。

(4) 動物実験計画書 C ブロック「使用動物」の「品質・系統」、「性別」、「質」、「体重・年齢」、「匹数」、「入手先」、「遺伝学的保証」、「微生物学的保証」については未記入で差し支えない、「飼養場所」・「実験実施場所」の「承認番号」は未記入とし、これら以外は記入する。

4. 施設関係

① 飼養場所、実験実施場所の施設設置申請・承認は行わない。

② 飼養場所、実験実施場所については、動物実験計画の申請の都度、動物実験委員会審査部会が現場確認する。その際、飼養保管施設チェックシート又は実験室チェックシートを作成し、シートの所定の項目（黄色の欄）を確認する。（別紙 3、別紙 4）

5. 教育訓練関係

① 動物実験計画を申請する場合は、動物実験委員会が開催する教育訓練の受講は必須とする。（実験責任者を含む動物実験実施者全員が対象）

6. その他

① 承認番号は、次のとおりとする。

(1) 両生類 G〇〇（西暦年度の下 2 桁）－〇（通し番号）

(2) 魚類 F〇〇（西暦年度の下 2 桁）－〇（通し番号）

○ 産業用家畜とみなされる実験動物への処置等に係る動物実験計画の申し合わせ事項

1. 一般的事項

① 外科的処置、サンプリングの処置等の 3R を考慮しなければならない研究、教育、実習等については、広島大学動物実験等規則を準用する。

また、産業動物の飼養保管については産業動物の飼養及び保管に関する基準（昭和 62 年総理府告示第 22 号）、生態の観察については家庭動物等の飼養及び保管に関する基準（平成 14 年環境省告示第 37 号）に準じて行うこと。

2. 審査関係

① 審査の対象は、外科的処置、サンプリングの処置等の 3R を考慮しなければならない研究、教育、実習等の動物実験計画とし、それ以外の動物実験計画の審査が必要な案件として申請のあったものについても審査の対象とすることができる。

② 動物実験委員会の東広島地区審査部会において審査する。

③ 審査部会に関して必要な事項は、「広島大学動物実験委員会に置く審査部会の取扱い」にて定める。

3. 動物実験計画関係

①申請者からの事前相談を東広島地区審査部会長が実施することとし、当該実験計画が産業飼育に該当するか否かの判断を行う。産業飼育に該当すれば、通常の動物実験計画書との区別を容易にするため、動物実験計画書 1 枚目の上部に「畜産」と記載する。

②動物実験計画書の作成要領は、次のとおりとする。（別紙 5）

(1) 広島大学動物実験等規則に定める別記様式第 1 号「動物実験計画書」を使用すること。

(2) 基本的に動物実験計画書の各ブロックは全て記入する。

(3) 動物実験計画書 B ブロック「実験計画と方法」の内容欄に産業用家畜の飼養現場を使用する必要性を加える。

(4) 動物実験計画書 C ブロック「飼養保管施設名」、「実験室名」は「瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター（農場）」と記入する。ただし、承認番号は未記入とする。

(5) 動物実験計画書 D ブロック「実験計画の補足説明」に産業用家畜へサンプリング等の処置をしなければならない理由を記入する。

4. 施設関係

①飼養場所、実験実施場所の施設設置申請・承認は行わない。

5. 教育訓練関係

①動物実験計画を申請する場合は、動物実験委員会が開催する教育訓練の受講は必須とする。（実験責任者を含む動物実験実施者全員が対象）

6. その他

①承認番号は、E〇〇（西暦年度の下 2 桁）－〇（通し番号）とする。

別紙1 動物実験計画書 (両生類)

別記様式第1号(第16条関係)

動物実験計画書

広島大学長 殿

提出日：平成	年	月	日
受取日：平成	年	月	日

A

☐ 研究用 ☐ 教育用		☐ 新規 ☐ 変更		(承認番号： , 承認年月日：)	
実験責任者	所属氏名	連絡先	TEL:	印	職名・身分 登録番号
	所属氏名	連絡先	TEL:	E-mail:	職名
	所属氏名	連絡先	TEL:	印	
飼養経費等負担者	所属氏名	連絡先	TEL:	E-mail:	職名・身分 登録番号
	所属氏名	連絡先	TEL:	E-mail:	職名
	所属氏名	連絡先	TEL:	印	
動物実験実施者 (全員記入)	所属氏名	連絡先	TEL:	E-mail:	職名・身分 登録番号
	所属氏名	連絡先	TEL:	E-mail:	職名
	所属氏名	連絡先	TEL:	E-mail:	

B

研究課題名 又は 授業科目名	開示の可否				☐ 1 全面開示	☐ 2 部分開示	和文 英文
	開示の可否				☐ 1 全面開示	☐ 2 部分開示	
実験目的	開示の可否				☐ 1 全面開示	☐ 2 部分開示	実験の種別 ☐ 1 材料の採取 ☐ 2 薬剤等の投与 ☐ 3 外科的処置 ☐ 4 系統維持・繁殖 ☐ 5 行動観察 ☐ 6 その他()
	(内容)						
実験計画と方法							
1 実験全体で使用する動物の必要数() 2 算出根拠(未記入で差し支えない)							

C

[illegible]

D

動物実験委員会 による検討結果	☐ 承認 承認番号：G○○(西暦の下2桁)ー○○(通し番号) 承認年月日：平成 年 月 日 (有効期限：平成 年 月 日) 審査部会長又は委員長	印
動物実験委員会 審査部会の意見		

別紙2 動物実験計画書 (魚類)

別記様式第1号(第16条関係)

動物実験計画書

広島大学長 殿

提出日：平成 年 月 日
受取日：平成 年 月 日

A

☐ 研究用 ☐ 教育用 ☐ 新規 ☐ 変更 (承認番号： , 承認年月日：)		
実験責任者	所属氏名	職名・身分
	連絡先TEL:	登録番号
	E-mail:	
飼養経費等負担者	所属氏名	職名
	連絡先TEL:	
	E-mail:	
動物実験実施者 (全員記入)	所属氏名	職名・身分
	連絡先TEL:	登録番号
	E-mail:	
	所属氏名	職名・身分
	連絡先TEL:	登録番号
	E-mail:	
	所属氏名	職名・身分
	連絡先TEL:	登録番号
	E-mail:	
	所属氏名	職名・身分
	連絡先TEL:	登録番号
	E-mail:	

B

研究課題名 又は 授業科目名	開示の可否		☐ 1	全面開示	☐ 2	部分開示	和文 英文
	開示の可否		☐ 1	全面開示	☐ 2	部分開示	
	開示の可否		☐ 1	全面開示	☐ 2	部分開示	
	実験の種類		☐ 1 材料の採取	☐ 2 薬剤等の投与	☐ 3 外科的処置		
実験目的	実験の種類		☐ 4 系統維持・繁殖	☐ 5 行動観察	(内容)		
			☐ 6 その他()				
実験計画と方法							
1 実験全体で使用する動物の必要数(未記入で差し支えない) 2 算出根拠(未記入で差し支えない)							

U

平成	年	月	日	～	平成	年	月	日	(変更後の開始時期：平成	年	月	日から)
動物種				品種・系統	性別	質	体重・齢	匹数	入手先			
使用動物	未記入で差し支えない											
遺伝的保証	☐ 1 有 ☐ 2 無 ☐ 3 未記入で差し支えない											
微生物学的保証	☐ 1 有 ☐ 2 無 ☐ 3 未記入で差し支えない											
飼育場所	飼育場所等名： 飼養管理施設名： 承認番号：未記入 実験動物管理者： 実験動物管理者： 承認番号：未記入											
実験実施場所												
動物実験が必要な理由	☐ 1 代替手段がない ☐ 2 代替手段の精度が不十分 ☐ 3 代替手段の経費が過大 ☐ 4 その他() 注意点											
安全管理上注意を要する点	☐ 感染実験 ☐ 遺伝子組換え動物使用実験 承認番号： (承認年月日：) ☐ 放射性同位元素放射線使用実験 ☐ 劇毒物質 ☐ 有害物質 ☐ その他 名称 有害性 ☐ BSL1 ☐ BSL2 ☐ BSL3 ☐ P1A ☐ P2A ☐ P3A											
相定される苦痛の区分(注 動物実験における実験処理に対する処置基準分類参照)	A.生きた動物を用いない実験 B.動物に対してほとんど不快を与えないと思われる実験 C.動物に対して軽微なストレス又は短時間持続する痛みを伴う実験 D.避けることのできない重度のストレスや痛みを伴う実験 E.麻酔していない意識のある動物を用いて動物が耐えることのできる最大に近い痛み又はそれ以上の痛みを与えるような実験(基本的に承認されない。) 1 動物の徘徊、歩行などの状態から軽微な苦痛の範囲内で、特に処置を講じる必要はない。 2 麻酔薬や鎮痛剤などの薬剤を投与する。 薬剤名・投与量・投与方法 (1) _____ (2) _____ 3 短時間の保定・拘束のため、特に問題はない。 4 実験の都合上やむを得ず24時間以上の保定・拘束をする。 5 重度のストレスや疼痛を伴うが、苦痛の軽減方法がない。 6 その他() 1 麻酔薬の投与及び吸入 薬剤名() 2 段階ガス 3 頸椎脱臼・断頭(深麻酔と併用すること。) 4 その他() 1 大学内で焼却(場所： 2 外部業者に委託 3 その他(具体的に記入：											
動物の苦痛の種類と軽減法												
安楽死の方法(複数回答可)	1 麻酔薬の投与及び吸入 薬剤名() 2 段階ガス 3 頸椎脱臼・断頭(深麻酔と併用すること。) 4 その他()											
実験終了後の動物の処置	1 大学内で焼却(場所： 2 外部業者に委託 3 その他(具体的に記入：											

P

実験計画の補足説明	☐ 1.なし ☐ 2.あり (別紙添付)
-----------	--

F

動物実験委員会 による検討結果	承認番号 □承認 承認年月日：平成 (有効期限：平成 年 年 F○○(西暦の下2桁)ー○○(通し番号)
動物実験委員会 審査部会の意見	審査部会長又は委員長 印

別紙３－２ 実験室チェックシート（両生類）

実験室チェックシート（両生類）			
調査日 年 月 日		動物種	
場所		質	
		調査項目	判定
実験室	構造	床	良・否
		清掃が容易 障害等の可能性のある突起・亀裂 など	良・否
	壁	清掃が容易 腐害等の可能性のある突起・亀裂 など	良・否
		出入口	有・無
	逃走防止	逃亡防止柵などの有無	有・無
	衛生配管	種類（逃亡防止柵・二重扉など）	
		床排水や流し台などの有無 排水口などある場合の対策（網の 取付けなど）	有・無
	その他	通気口などの開口部の有無	有・無
		開口部がある場合の対策（網の取 付けなど）	
	衛生	臭気防止策	屋外排気や脱臭装置の有無
騒音防止策		屋外排気の場合、周辺への影響の有無	有・無
		機械作動音や動物の鳴き声への対策の有無	有・無
		廃棄物の処理	保管設備の有無
		動物死体	廃棄の方法（業者委託・焼却な ど）
	他の廃棄物	保管設備の有無 廃棄の方法（業者委託・焼却な ど）	有・無
その他	実験室の安全管理に関する手順書	動物逃走時の対応手順	有・無
		咬傷などの事故発生時の対応手順	有・無
		地震・火災などの対応手順	有・無
		実験室の安全管理に関する手順書の作成と実験室への配備	有・無
	施設の実情に応じた必要事項等		
安全管理		人畜共通感染症などに罹患した際に診療を行う医師及び健康管理への連絡体制（連絡網等）の作成と配備	有・無
特記事項		地震、火災などの緊急時にとるべき措置に関する計画書類（連絡網）の作成と配備	有・無
調査結果			
調査委員会と意見			
調査結果			

別紙４－１ 飼養保管施設チェックシート（魚類）

飼養保管施設チェックシート（魚類）					
調査日	年	月	日		
場所	動物種			質	
飼育容器	構造	調査項目		判定	備考
		飼養品など			
環境	床	防水性や耐薬品性など	良・否	チェック不要	
	壁	障害等の可能性のある突起・亀裂など	良・否		
	天井	防水性や耐薬品性など	良・否		
	照明器具	障害等の可能性のある突起・亀裂など	良・否		
	遮光	防水性や耐薬品性など	有・無		
	温度	遮光対策の有無	有・無		
	湿度	遮光の方法	暗幕		
	換気	設備の有無	有・無		
	照明	正常に動作しているか	有・無		
	その他	設定値	夏℃ 冬℃		水温℃
逸走防止	出入口	モニター方法	有・無		
	衛生配管	設備の有無	有・無		
	その他	正常に動作しているか	良・否		
	ラック・ケージ	設定値	%		
	滅菌	モニター方法	有・無		
	臭気防止策	設備の有無	有・無		
	騒音防止策	正常に動作しているか	有・無		
	害虫の発生防止	煙類（換気扇・ロスナイなど）	良・否		
	廃棄物の処理	照明時間の調整機器の有無	有・無		
	他の廃棄物	点灯時間	時間		
衛生	洗浄	ネズミ返しなどの有無	有・無		
	滅菌	種類（ネズミ返し・二重扉など）	有・無		
	臭気防止策	床排水や流し台などの有無	有・無		
	騒音防止策	排水口などある場合の対策（網の取付けなど）	有・無		
	害虫の発生防止	通気口などの開口部の有無	有・無		
	害虫の発生防止	開口部がある場合の対策（網の取付けなど）	有・無		
	害虫の発生防止	メーカー			
	害虫の発生防止	型式			
	害虫の発生防止	数量			
	飼育器材	既製品以外	動物種に応じた逃亡防止の構造と強度がある	良・否	
既製品以外		容易に排泄・排水ができる	良・否		
既製品以外		容易に排泄・排水ができる	良・否		
既製品以外		自然な姿勢が維持できること	良・否		
既製品以外		実験動物が障害を受けにくい構造であること	良・否		
既製品以外		洗浄・消毒・滅菌などが容易な構造で、それに耐える強度を有すること	良・否		
既製品以外		飼育器材などに準じた流し台などの有無	有・無		
既製品以外		洗浄器具などの有無（ブラシやスクレーパーなど）	有・無		
既製品以外		オートクレープなどの滅菌設備の有無	有・無		
既製品以外		消毒薬などの有無	有・無		
臭気防止策	臭気防止策	屋外排気や脱臭装置の有無	有・無		
	騒音防止策	屋外排気の場合、周辺への影響の有無	有・無		
	害虫の発生防止	機械作動音や動物の鳴き声への対策の有無	有・無		
	害虫の発生防止	換気扇・通気口などの害虫の侵入経路に対する侵入防止措置（フィルターなど）の有無	有・無		
	害虫の発生防止	出入り口の開閉は必要最小限にとどめているか	良・否		
	害虫の発生防止	動物死体	有・無		
	害虫の発生防止	保管設備の有無	有・無		
	害虫の発生防止	他の廃棄物	有・無		
	害虫の発生防止	保管の方法（業者委託・焼却など）	有・無		
	害虫の発生防止	廃棄の方法（業者委託・焼却など）	有・無		

哺乳類のうち実験用霊長類とみなされる動物種及び家畜・野鳥などの鳥類を除く実験動物に適用

その他	標準操作手順書	事務関係	調査項目		判定	備考
			利用者の登録手順	動物搬出入手続きの手順		
	飼育関係	飼育関係	関係書類の保存・廃棄手順	関係書類の保存・廃棄手順	有・無	
			検収・検査・順化の手順	検収・検査・順化の手順	有・無	
			給餌・給水・床敷交換などの手順	給餌・給水・床敷交換などの手順	有・無	
			飼育動物の状況確認	飼育動物の状況確認	有・無	
			入退室の手順	入退室の手順	有・無	
	衛生関係	衛生関係	飼育器材の洗浄・消毒・滅菌の手順	飼育器材の洗浄・消毒・滅菌の手順	有・無	
			死体の保管と廃棄の手順	死体の保管と廃棄の手順	有・無	
			床敷などの保管と廃棄の手順	床敷などの保管と廃棄の手順	有・無	
			感染性廃棄物などの保管と廃棄の手順	感染性廃棄物などの保管と廃棄の手順	有・無	
			飼育室の清掃消毒などの手順	飼育室の清掃消毒などの手順	有・無	
その他	その他	設備・機器の保守点検の手順	設備・機器の保守点検の手順	有・無		
		保守点検関係	故障時の対応手順	有・無		
		動物逸走防止対策の手順	動物逸走防止対策の手順	有・無		
		設備などの事故発生時の対応手順	設備などの事故発生時の対応手順	有・無		
		飼養保管施設設置等承認申請書の判断	飼養保管施設設置等承認申請書の判断	有・無		
	記録・保存書類	記録・保存書類	手順書の添付	基準の添付	有・無	
			標準操作手順書の飼養保管施設への配備	標準操作手順書の飼養保管施設への配備	有・無	
			施設の整備に	施設の整備に	有・無	
			必要事項等	必要事項等	有・無	
			実施の	実施の	有・無	
	安全管理	安全管理	検査などに関する書類	検査などに関する書類	有・無	
			人手先、飼育履歴、病歴などに関する書類	人手先、飼育履歴、病歴などに関する書類	有・無	
			輸送に関する書類	輸送に関する書類	有・無	
			利用者の入室管理方法	利用者の入室管理方法	有・無	
			人畜共通感染症などに罹患した際に診療を行う医師及び健康管理への連絡体制（連絡網等）の作成と配備	人畜共通感染症などに罹患した際に診療を行う医師及び健康管理への連絡体制（連絡網等）の作成と配備	有・無	
			吹傷等の事故発生時に必要な医薬品類の配備	吹傷等の事故発生時に必要な医薬品類の配備	有・無	
			地震、火災などの緊急時にとるべき措置に関する計画書類（連絡網）の作成と配備	地震、火災などの緊急時にとるべき措置に関する計画書類（連絡網）の作成と配備	有・無	
特記事項						

別紙 4－2 実験室チェックシート（魚類）

実験室チェックシート（魚類）					
調査日 年 月 日		動物種			
場所		質			
実験室	構造	調査項目	判定	備考	
					床
	壁	清掃が容易 腐害等の可能性のある突起・亀裂 など	良・否		
		逃走防止	出入口	ネズミ返しなどの有無	有・無
	衛生配管		種類（ネズミ返し・二重扉など） 床排水や流し台などの有無 排水口などある場合の対策（網の 取付けなど）	有・無 有・無	
	その他		通気口などの開口部の有無 開口部がある場合の対策（網の取 付けなど）	有・無	
	衛生		衛生配管	有・無	
	騒音防止策 廃棄物の処理	屋外排気や脱臭装置の有無	有・無		
		屋外排気の場合、周辺への影響の有無	有・無		
		機械作動音や動物の鳴き声への対策の有無	有・無		
動物死体 廃棄の方法（業者委託・焼却な ど）		有・無			
その他	他の廃棄物	保管設備の有無 廃棄の方法（業者委託・焼却な ど）	有・無		
	実験室の安全管理に関する手順書	動物逃走時の対応手順 咬傷などの事故発生時の対応手順 地震・火災などの対応手順 実験室の安全管理に関する手順書の作成と実験室への配備 施設の実情に応じた必要事項等	有・無 有・無 有・無 有・無		
安全管理	人畜共通感染症などに罹患した際に診療を行う医師及び健康管理への連絡体制（連絡網等）の作成と配備 地震、火災などの緊急時にとるべき措置に関する計画書類（連絡網）の作成と配備	有・無			
	特記事項		有・無		
調査結果					
調査委員名と意見					

別紙5 動物実験計画書(産業用家畜)

上部に「畜産」の表示を
記載する

別記様式第1号(第16条関係)

動物實驗計畫書

広島大学長 殿

提出日：平成	年	月	日
受取日：平成	年	月	日

A

☐ 研究用 ☐ 教育用 ☐ 新規 ☐ 変更		(承認番号：)	
		所 属	職名・身分
実験責任者	氏 名	印	登録番号
	連絡先	E-mail:	
	所 属		職 名
	氏 名	印	
飼養経費等負担者	連絡先	E-mail:	職名・身分
	所 属		登録番号
	氏 名		
	連絡先	E-mail:	職名・身分
動物実験実施者 (全員記入)	氏 名		登録番号
	連絡先	E-mail:	職名・身分
	所 属		登録番号
	連絡先	E-mail:	職名・身分
	氏 名		登録番号
	連絡先	E-mail:	職名・身分
	所 属		登録番号
	連絡先	E-mail:	職名・身分
	氏 名		登録番号
	連絡先	E-mail:	職名・身分
	所 属		登録番号
	連絡先	E-mail:	職名・身分

B

研究課題名 又は 授業科目名	開示の可否	☐ 1 全面開示	☐ 2 部分開示	和文 英文
	開示の可否	☐ 1 全面開示	☐ 2 部分開示	
実験目的	開示の可否	☐ 1 全面開示	☐ 2 部分開示	産業用家畜の飼養現場を使用する必要性を加えて記載
	実験の種類	☐ 1 材料の採取 ☐ 4 系統維持・繁殖 ☐ 6 その他()	☐ 2 薬剤等の投与 ☐ 5 行動観察	
実験計画と方法	(内容)			
	1 実験全体で使用する動物の必要数() 2 算出根拠()			

○

平成	年	月	日	～	平成	年	月	日	(変更後の開始時期)	平成年	月	日	から
動物種	品	種・系統	性別	性質	体重・年齢	匹数	入手先						
使用動物	遺伝的保证	☐ 1 有 ☐ 2 無 ☐ 3 なし ☐ 4 その他											
飼養場所	微生物学的保証												
飼養保管施設名:	飼養保管施設名:												
実験実施場所	部局等名:												
動物実験が必要な理由	実験番号: □ 1 代替手段がない □ 2 代替手段の精度が不十分 □ 3 代替手段の経費が過大 □ 4 その他()												
安全管理上注意を要する点	感染実験 □ 遺伝子組換え動物使用実験 □ (承認番号:) 承認年月日:) 放射線同位元素放射線使用実験 □ 関係 有害物質 □ その他 □	名称	有害性	注意点									
想定される苦痛の区分(注) 動物実験における実験に對する倫理基準分類参照)	A.生きた動物を用いない実験 B.動物に対してほとんど不快を与えないと思われる実験 C.動物に対して軽微なストレス又は短時間持続する痛みを伴う実験 D.速けることのない重度のストレスや痛みを伴う実験 E.速けることのない意識のある動物を用いて痛みが耐えることのできる最大の範囲に近い痛み又はそれ以上の痛みを与えるような実験(基本的に承認されない。)	BSL1 □ BSL2 □ BSL3 □ P1A □ P2A □ P3A □											
動物の苦痛の種類と軽減法	□ 1 動物の摂餌・歩行などの状態から軽微な苦痛の範囲内で、特に処置を講じる必要はない。 □ 2 麻酔薬や鎮痛剤などの薬剤を投与する。 薬剤名・投与量・投与方法 (1) (2) □ 3 短時間の保定・拘束のため、特に問題はない。 □ 4 実験の都合上やむを得ず 24 時間以上の保定・拘束をする。 □ 5 重度のストレスや疼痛を伴うが、苦痛の軽減方法がない。 □ 6 その他()	薬剤名() 1 麻酔薬の投与及び吸入 2 鎮痛剤 3 鎮痛剤 4 その他()											
実験終了後の動物の処理	□ 1 大学内で焼却(場所:) □ 2 外部業者に委託 □ 3 その他(具体的に記入:)												
実験計画の補足説明	□ 1.なし □ 2.あり (別紙添付)												

産業用家畜からサンプリングしなければならぬ理由を記載する

D

動物実験委員会 による検討結果	承認番号： ☐ 承認 承認年月日：平成 年 月 日；平成 年 月 日 (有効期限：平成 年 月 日)	E○○(西暦の下2桁)ー○(通し番号)
動物実験委員会 審査部会の意見	審査部会長又は委員長 印	